

第40回 三条市小中一貫教育推進委員会 会議録

1 開会宣言 令和6年2月19日(月) 午前10時30分

2 場 所 三条市役所栄庁舎大会議室

3 出席状況

(1) 出席委員 雲尾 周委員長、渡邊 芳久副委員長
渡邊 伸明委員、関 慎太郎委員、田村 和弘委員、
安達 善行委員、品田 勉委員、佐藤 一機委員、
倉田 孝英委員、土田 貴宏委員、伊藤 正史委員、
吉成 恭子委員、野口 典弘委員、高橋 絵美委員、
佐藤 栄委員、金子 昇委員、多田 清英委員 (17人)

(2) 欠席委員 植木 朋弘委員、近藤 静香委員 (2人)

(3) 事務局職員

教育長 高橋 誠一郎、

教育部長 平岡 義規、

教育総務課長 野水 裕晃、

子育て支援課長 小林 正芳、

学校教育課長 熊倉 隆司、教育センター長 森田雅弘

統括指導主事 吉田卓司、指導主事 今井 由実子、

指導主事 畑宏幸、指導主事 藤井 佳介、

指導主事 高橋 将也、特別指導主事 中村 義則、

特別指導主事 浅井 弘行

4 傍聴人 なし

5 会議次第

(1) 開会

(2) 開会のあいさつ

(3) 報告

(4) 議事

(5) その他

(6) 閉会のあいさつ

(7) 閉会

6 会議の経過及び結果

(1) 開会のあいさつ

(雲尾委員長) 昨年 11 月に新潟大学、教職大学院の訪中訪問団小中学校の先生方が 1 月に 36 名がいらして、新潟の小学校と附属新潟、附属長岡を訪問して帰っていかれました。これは、4 年間分の人数で、1 年間の 10 人くらい来ていただいていたので、また、交流が普通にできるようになっていったというのがうれしいことです。これから先、卒業式も以前のように 5 年前のように普通に行えるようになってきました。その中で、更に小中一貫教育をしっかりと進めていくことがより一層子供たちを伸ばしていけることになると思いますので、本日も活発な審議をお願いします。

(2) 報告

(吉田統括指導主事) 出席者数の確認 出席者 19 人の委員の内、17 人の委員の出席で、規定により半数以上の出席があるので、本会議は成立しました。

第 39 回小中一貫教育推進委員会検討内容 (概略) 及び実施状況

・吉田統括指導主事が説明(資料No.1、別紙)

(雲尾委員長) ただいまの説明につきまして御発言のある方はございますでしょうか。

[質疑なし]

(3) 議事

令和 5 年度小中一貫教育アンケート (共通項目) の結果について

・和田特別指導主事が説明(資料No.2、別紙)

～意見、質疑～

(野口委員) 大崎学園です。アンケート項目Ⅰの「学園内の仲間とのつながり」で、大崎学園の状況ですと、市全体の結果と比べ、小 5 から小 6 肯定的評価のポイントが上がっています。これは、前期課程の 5、6 年生が後期課程と交流する機会として、絆集会、ウインターレク、生徒総会・選挙などがあり、後期課程への不安が少ないということで、こういった活動が大切だと思います。

(品田委員) 一ノ木戸ポプラ学園一ノ木戸小学校の品田です。アンケート項目Ⅱ、「つながりを意識した授業の実施について」で報告します。児童生徒で、「あなたは、授業を楽しんでいると感じていますか」の項目ですが、市の平均より、小 5 で 10%、小 6 で 8%ほど高かったです。日頃の教員の授業準備、家庭学習強調週間などで、授業の楽しみ方を見童に紹介しているベースに加えて、今年度タブレットドリルを導入しています。授業後や単元のまとめなどで

有効的に使うことで、子供たちが意欲的に取り組めたことが平均を上回ったことにつながっているのではないのでしょうか。

(倉田委員) 瑞穂学園本成寺中学校の倉田です。アンケート項目Ⅰの「学園内の仲間とのつながり」で、瑞穂学園の取組を述べます。生徒の評価の所ですが、市平均と比べ、特に中2で高い傾向があります。取組等では、体育祭や合唱コンクールなど生徒が中心となって活動しているところがあると考えます。合唱コンクールでは、中間発表会で小学生から参観してもらい有意義な交流ができました。また、人間関係づくりに重点を置いて取り組んでいます。人権意識が低い行動も見られますが、一人一人の居場所づくりを大切にして細かく指導を続けていくのが、子供たちが安心して過ごせることにつながっているのではないのでしょうか。

(土田委員) 三条おおじま学園大島中学校の土田です。アンケート項目Ⅰの「学園内の仲間とのつながり」において、市の平均より高い数値を示しています。学校規模が小さい学校で、一つの学校に集まりやすいということで、眠育の講演会など様々な講演会で小学校と一緒に実施していることが成果につながっていると思います。アンケート項目Ⅱの「つながりを意識した授業の実施について」は、中学校で高い数字が出ています。中学校で道徳を中核としていますが、様々な活動と結び付けて小学校の授業と連携しながら進めているところがこの成果に表れていると思います。最後にアンケートⅢの「地域とのつながり」では、全体で10%ほど高いです。今年度、小学校1年生から中学校3年生まで、地域の方も参加して、「おおじまブラボーデー」を実施する予定でしたが、それが実現できませんでした。それが来年度は実施できてこの数字が更に上がることを期待しています。ここまで上がってきたのは、地域にあいさつ活動に行ったり、学園運営協議会の方との交流や話し合ったりした成果が現れてきているのではないのでしょうか。

(吉成委員) しただの郷学園では、アンケート項目Ⅲ「地域とのつながり」で、全体的に市の平均と比べ高くなっています。小学校では、5つの全小学校で総合的な学習でふるさと学習を行っていて、下田の特産物から実際に商品を作る、地域の伝統文化を地域の人たちと一緒に体験して披露する、あるいは、コミュニティ・スクールで情報発信が進んでいる学校があり、肯定的な評価が高い要因となっています。中学校では、新型感染症流行後は、2年生が行う職場体験を、下田地区内で全て受け入れてもらえるよう実習先を開発しました。自分の学区ですべて職場実習ができる場所がこの成果につながっているのではないのでしょうか。中学校3年では、9年間のふるさと学習の最後の学びで、地域おこし協力隊の方と学習発表で成果を共有

したり、下田資源発掘コンテストに下田の良さをアピールしたりする機会があり、地域の方との活動が活かされていると思います。

このように、学校の立地や地域の特性を理解し生かした活動を教員が仕組んでいたり、地域も学校運営協議会の皆様の御協力を得ながら取り組めていたりするところが成果につながっていると思う。

(伊藤委員) さかえ学園では、すべての項目で、市内の学校より高い数値となっています。例年の活動の結果が、この好結果を生んでいると思います。中でも、感染症対応が緩和され、全ての活動が充実した形で行うことができました。いじめ見逃しスクール集会、フラワーロード活動、あいさつ運動などが地域との関わりを生む場となっています。教職員の意識の高さも向上しています。感染症対応を緩和し、ダイナミックに行うことができたということが、職員も充実した活動ができたということです。一方、自己有用感が去年より落ちていて、夏の陸上練習が暑さのため30分で終わることになり、最後までやり遂げられなかったというのが原因ではないかと思われます。また、教職員も児童生徒の意識の下がったことについて、授業改善に努めていきたいと思います。

(雲尾委員長) アンケート結果の中で、とりわけ、良いところを中心に御報告していただいた部分がありました。アンケートの結果から、改善をするということは平均が低いところを上げなければならないという使命感があると思いますが、マイナス面を上げようとしても、全体が平均化していただけないので、報告にあった、いろいろな強み、良いところを伸ばしていくという発想で進めてもらいたいと思います。以上で記事を終わり、事務局にお願いします。

(吉田統括指導主事) 次年度も、このアンケートと同じ形式で行っていくことについて、委員から了承を頂きたいのですが、お願いしてもよろしいでしょうか。

(雲尾委員長) 御意見等を頂きまして、順調に進んでいることが評価ができたという御意見があったと思います。来年度も、同じ形式アンケートを行うことにつきまして、御了承いただけますか。

(各委員) 異議なし。

(雲尾委員長) ありがとうございます。次年度も、同じアンケートの形式でお願いします。

(4) その他

- ① 各学園の小中一貫教育の取組について (各学園から)
 - ・各学園からの説明 (資料No.3)

(畑指導主事) 各学園の取組について、各学園の小中一貫教育の取組について、資料 No.3 の小中一貫教育取組概要報告をもとに、今年度の取組や成果と課題について、各学園から御紹介いただきます。各学園 2 分程度で御紹介をお願いします。

(各学園委員) 嵐南学園～大崎学園まで紹介

※四つ葉学園は欠席のため紙面で代える。

(畑指導主事) 成果と課題についての報告について御質問があればお願いいたします。

(渡邊委員) 教職員組合県央支部の渡邊です。各校の様々な取組を聞かせていただき大変ありがとうございました。小中の連携や学びの継続、自己肯定感の高まりが様々な活動から見られて、とても素晴らしい取組をされているのだということが良く分かりました。また、地域のつながりや教職員のつながり等も深くなって行って、取組がすごく大事なのだということが分かりました。

1 点お伺いしたいことがあります。各校の取組の中で、あいさつ運動をされているところがたくさんあるかと思うのですけれども、それらについては、勤務時間外の活動になってくるかなと思うのですけれども、そういったところの扱いをどのようにされているか、働き方の面からも、例えば、お昼の挨拶運動であるとかそういったところの検討等はあるのかどうかなどお伺いしたいところもあります。三条おおじま学園では、バスの中でのあいさつ等、できる範囲の取組をされているということで、素晴らしいと思いましたが、是非教えていただけることがありましたらお願いします。

(畑指導主事) ただいまの発言で、御回答できる学園はありますか。

(倉田委員) 瑞穂学園です。あいさつ運動は、朝実施しています。先ほどの勤務時間のところ、確かにおっしゃるとおりだと思いますので、御指摘の所、今後検討していきたいと思います。ありがとうございました。

(土田委員) 三条おおじま学園です。バスのあいさつ運動は今後の検討で、まだ実現はしていませんが、バスに職員が乗ってマナーの指導をしており、それは、勤務時間外の活動もあつたりします。あいさつ運動については、登校時間に、各小学校に職員が寄って、自校では遅く始めていますので、あまり勤務時間に影響は出ていないのですが、その部分、早めにやったところについては、後ろの方で調整するところは声がけはしていたと思います。

(畑指導主事) せっかくの機会ですので、参加された委員の方で、小中一貫教育全体にかかわりまして何か御意見等はありませんか。御感想でも構いませんので頂きたいと思いますがいかがでしょうか。

(関委員)

附属長岡小学校の関と申します。本日は、本年度の取組の具体や成果を教えていただきありがとうございました。感想とともに、学ばせていただいていることへの感謝と当校の現状を御紹介させていただければと思います。当校は、研究開発、地域貢献、教員養成の三つの使命を果たすため、教育実践研修を行っています。特にこれまでの3年間は、新型感染症禍でしたが、「自ら動き出す子供」を研修主題にすえ、各教科の研究を進めてきました。あわせて、総合的な学習の時間では、地域創生、「そうせい」として、様々なステークホルダーと関わりながら、地域創生の課題に取り組んできました。また、幼少接続、小中連携といった幼小中12年間一貫教育を進めてきました。当校の運営指導委員として、いつも雲尾先生から御指導を頂いています。本年度も、三条市の先生方から多くの取組を学ばせていただきました。来年度は、当校は、文部科学省の研究開発指定をただいま申請中で、「ものづくり科」という新しい教科を立ち上げます。Society 5.0におけるものづくりに関連する指導内容の整理統合を行いまして、新たな教科を進めていきます。このことによって、官民学のリソースを効果的に活用したリアルとデジタルを融合した次世代のものづくりカリキュラム開発を通じて、イノベーション人材に必要な資質能力の育成とその評価の在り方について研究を進めていきます。三条市のものづくりの現場、要素なども、今後たくさん取り入れながら学ばせていただける予定です。同時に、各教科の研究も進めています。学校の若手の先生の実態や研修への取組の様子はいかがでしょうか。今年度、当校の研究会にたくさんさん参加いただきました。研究会では、延べ3,800人、夏のオンラインのセミナーには、2,700人、毎月1回行っている「ふらっと長岡」には、現段階で3,000人参加していただいています。全国からも多くの皆様から参加していただいています。三条市の先生方からも研究協力員、日々の研修会にたくさんさん参加していただいています。先々週、三条学園の裏館小学校と上林小学校の若手の先生方が視察に来られました。個別のお願いでしたが、授業参観と授業づくりと学級経営についての講義をさせていただきました。個別の依頼もどんどん受け付けていますし、若手の先生方のサポートの受皿にもなれるかなと思っていますので、いつでも結構なので、来年度、忙しくてできないと思わず、すぐお話しいただければ個別のオーダーに応じていきたいと思っています。

本日、2月、3月のちらし、「ふらっと長岡」の御案内をお配りしました。2月は、福井大学の岸野先生を招いて、保幼小接続から考える子供の育ちと学びについて考えていきます。私は、昨日一昨日と、福井大学の芸

能教職員大学のラウンドテーブルに参加して参りました。そこで、話題に出たのは、働き方改革の名の下に若手の先生を始め、教師という存在は、孤立する専門職になっているのではないかということで、必要な部分まで削って、本当は悩みや課題を抱えているのに、もんもんと過ごしており、そうしたときに、校種を超えて職員が連携して協創していく専門職にならなければいけないという話題が出ていました。正に、三条市さんが、小中の連携を校種の壁を越えて、職員のコミュニティの中で高め合うという所は、話題にも紹介させていただいたところですが、大変学ばせてもらう部分かなと思います。

3月は、上越教育大学の赤坂慎治先生を直接お招きして、学年末、新年度に向けての学級経営についてのお話を頂きます。一緒に考えていくというスタンスで考えたいと思います。是非、勤務校の先生方、特に若手の先生方に御紹介いただければと思いますし、来年度三条市からお話を頂いて、当校教頭の畑山が学級経営を専門にしていますが、6月、8月、11月の3回、三条市でお話をさせていただくことで予定が組んであるので、決まりましたら、後日御案内が行くと思いますのでたくさんの先生方から参加をお願いしたいと思います。

来年度も三条市の先生方のお力添えを頂きながら、研究開発等地域貢献に努めてまいりたいと思います。今後も、当校の教育活動への御理解と御協力をよろしく申し上げます。お時間を頂きましてありがとうございました。

② その他

(畑指導主事) 今年度最後の推進委員会となりますので、地域の代表の方、保護者の代表をされている皆様方からも、感想でも構いませんので、一言いただけたらと思います。

(佐藤栄委員) 一つ教えていただきたいのですが、挨拶運動が時間外、時間内ということで、働き方改革の中でそういう言葉が出てくるのだと思いますが、あいさつ運動を早めに行って先生方がやってくれるのがいいとなっていますが、それも時間外という処理になるのでしょうか。その辺を教えてください。

(高橋教育長) 御質問いただきまして大変ありがとうございます。教員の勤務時間につきましては、7時間45分ということで、1日の勤務時間が決められています。これを1日の中のどの時間の中に割り当てるかは、校長が勤務の割り振りをすることになっています。今お話しいただいたあいさつ運動については、おおよそ7時間45分よりも早い時間帯ですので、恐らくこれは、

明らかに時間外の労働になっているのは明らかであると思っています。現状としては、これは、当然勤務ですので、そこに出ている先生方が事故の場合は、当然、公務災害の対象となる勤務として扱っているわけです。簡単にボランティアでしていいという形ではない形で取り組んでいただいていると認識しています。ただ、教職員の皆さんには、それぞれの業務の中でやむなく時間外の勤務をしていただかなくてはならないことについては、どうしてもついて回りますので、この部分の給与については、教職調整額という中で、先生方に払われているということでもあります。ただ、そうはいいまして、どこからどこまで対象になるかは、実はいろいろな議論がありまして、明確ではないところがありますので、できる限り例えば、ある一定の時間を朝がんばっていただいた分、先生方には少し休んでいただくということが校長の判断の中で配慮できれば一番良いのではないかと考えています。ただ、なかなか学校現場は、そういった時間はとれないというのが現状でありますので、できる限り勤務時間の中でできれば一番いいと思っています。今後とも、そういう部分については工夫改善をしていかなければならないと思っています。あわせて、今勤務時間で御尽力いただいている先生方には、子供たちのために、子供たちの社会性のために地域のためにということで、働いていただいておりますので本当に感謝の一言であります。それに、呼応していただいている地域の皆様、学園では教職員が出るのに合わせて、地域の皆様も一緒にあいさつ運動をしていただいている。こういった掛け合いができるというのが、本当に有り難いことだと、地域のために、子供たちのために本当に素晴らしいことだと思っていますので、本当に地域の皆様と職員には感謝の一言に尽きると考えております。また、安全にいい形で継続できればと考えているところです。

(金子委員) 今年自治会長ということで、1年間いろいろと勉強させていただきました。私の地区は栄地区で、よく小学校、中学校のフラワーロードでしょうか、小学校、中学校の子供たちと一緒に汗水を垂らしてやってきました。その中で、道を歩いていると、本当に元気な声でおはようございますとか、すごいあいさつがあるのです。昔は、こんなだったのかなと思いながら子供たちと接していたのですが、先生方のこういった研究から生まれてきているのだなというのを感じて、とても勉強させてもらいました。先ほど、ものづくりの話がありましたが、燕と三条で、ものづくりをやっている仕事柄、商品のものをつくるということをお子たちに教えたり伝えたり、その企業の大切さを勉強しながら伝えていけたら良いと思います。そ

の他に、あいさつもそうなのですからけれども、地域のお年寄りだとかお父さんお母さんとかの他人とのふれあいも大切だと思うので、今後また、勉強していただく中で、そういったものを発案としてやっていけたらいいなと思っております。今年はありがとうございました。

(多田委員) 私も、今年自治会ということで、参加させてもらっています。あいさつ運動は、本当に前よりは良くなっていると思います。小学校から中学校の皆さんがあいさつしてもらっていると思います。それと、私たちが一番困るのは、子供がいないということで、子供の数がまるっきり少なくなっていて、私たちの自治体でも困っています。この辺、教育委員会の方も学校を統合するとか、そういう話はないのでしょうか。

(高橋教育長) ありがとうございます。少子化の問題についても、国を挙げて今対策に取り組んでいるところです。自治体もどのような形で支援することで、少子化に歯止めがかけられるのか、それにあらがうことができるのかというのを日々考えています。本当に加速度的に子供たちの数が減少していく所にあって、御指摘いただいたように、統廃合は、県内各地で出ているところです。

私たちは、先般の報道でも発表になっていますが、次年度から「三条未来の学校検討委員会」というものを立ち上げて、そこで大勢の市民の皆さん、有識者の方々から、どのような形がいいのかということをお提言いただく場を作らせていただくことになっております。その後、統廃合だけでなく、本来的に子供たちにどういった力が必要なのかを考えた上で、どういった教育環境が必要なのかということをお考えいただく場を作らせていただきますので、そこでの御提言を受けながら、教育委員会としては考えていきたいと思っております。

今日、御案内のとおり、子供たちの数が少なくなっていく中でも、小学校、中学校が、また、前期課程、後期課程が一緒になって、大勢で活動することによってその少子化にあらがう社会性育成の活動をこれだけ三条市で展開していただいているというのが、その一つの大きな対策になっていけるかなと思っております。そういった意味で、今後の活動について非常に大きな期待を込めて各学園の皆様の活躍を見守り、支援していきたいと考えています。

(多田委員) ありがとうございました。是非考えていってほしいと思います。

(高橋委員) 月岡小学校のPTA会長の高橋です。月岡小学校では、保護者の価値観が違ったりしてきて、今年PTAの改革を行いました。それで、今後は、ボランティア活動で、保護者の皆さんにPTAの活動に参加していただくという

形をもちまして、あいさつ運動は廃止しました。瑞穂学園では行っているのですが、月岡小学校はそういった形で、PTAの仕事を抜本的に改革してまいります。今日の会ですけれど、保護者として、一意見として、先生たちの御苦勞が大変だと思います。あと、他校の学園の行事ですとか地域の活動をいろいろ知ることができてとてもいい場になりました。一年間ありがとうございました。

(5) 閉会

(畑指導主事) 閉会のあいさつを、当委員会の副委員長をお願いしております渡邊芳久様から頂戴いたします。

(渡邊副委員長) 冒頭私事で恐縮ですが、三条に寄せていただいてから11年がたちました。ちょうどその年の春、5月くらいでしょうか、箱物としての教育センターが開設され、全面実施を経て、今、小中一貫教育が次の10年に向かって、スタートを切ったところかなと思います。この5年間は、この席に座らせていただいて、三条市の小中一貫教育について、たくさん学ばせていただきました。

この会は、設置要項の1条目的によりますと、小中一貫教育について効果的な推進に必要な事項の検討を行うために設置をされていると書かれています。この40回を通じて、三条市の小中一貫教育がとてもすばらしい方向に向かってきているのだなということを改めて今日の会議を通して感じることができました。また、各委員の皆様、高橋教育長様の今日のお話の端々に、次の10年に向かっての新しい三条市の教育、三条市の教育の未来が少しずつ見えてきているのかなということも感じています。

是非、今日までの成果と課題を基に、令和6年度以降の三条市の小中一貫教育あるいは、三条市の子供たち、地域のためにこの委員会ができることを共に進めていければと感じた次第です。本日は、皆様大変にお疲れ様でした。ありがとうございました。

(畑指導主事) 雲尾委員長様、並びに各委員の皆様、本日は誠にありがとうございました。今回の会議を入れまして、本年度3回の推進委員会を無事に開催することができましたことを改めて感謝申し上げます。

以上をもちまして、第40回小中一貫教育推進委員会を終了いたします。本日は大変ありがとうございました。

(閉会 午前11時45分)